

第2章 学位授与者の動向（進路状況等）

本学において授与する学位は、修士及び博士の学位であり、各研究科ごとに次の専攻分野の名称を付記している。

- ・情報科学研究科
専攻分野：理学又は工学
- ・バイオサイエンス研究科
専攻分野：バイオサイエンス
- ・物質創成科学研究科
専攻分野：理学又は工学

学位授与の要件は、博士前期課程修了者に修士の

学位を、博士後期課程修了者に博士の学位を授与するほか、論文提出により博士論文の審査等に合格した者に博士の学位を授与している。学位授与の時期は、学年末の3月のほか、6月、9月、12月の年4回である。

平成5年度の学生受入れ以来、平成12年度末までに学位を授与された者の数は、博士前期課程修了による者が1,793人、博士後期課程修了による者が188人、博士論文提出による学位授与者が1人となっている。各年度別の学位授与状況は次表のとおりである。

(学位授与状況)

情報科学研究科

	博士前期(修士)課程			博士後期(博士)課程		
	学位授与数	学位の種類・専攻分野名		学位授与数	学位の種類・専攻分野名	
		修士(工学)	修士(理学)		博士(工学)	博士(理学)
平成5年度	1(1)	1(1)	—	—	—	—
平成6年度	130(17)	129(17)	1	—	—	—
平成7年度	129(11)	128(11)	1	3(3)	3(3)	—
平成8年度	126(7)	123(7)	3	4(4)	4(4)	—
平成9年度	134(10)	132(10)	2	23(10)	22(9)	1(1)
平成10年度	118(7)	115(7)	3	29(11)	28(10)	1(1)
平成11年度	129(8)	128(8)	1	25(9)	25(9)	0
平成12年度	136(9)	133(9)	3	27(9)	26(9)	1
合計	903(70)	889(70)	14	111(46)	108(44)	3(2)

バイオサイエンス研究科

	博士前期(修士)課程		博士後期(博士)課程	
	学位授与数	学位の種類・専攻分野名	学位授与数	学位の種類・専攻分野名
		修士(バイオサイエンス)		博士(バイオサイエンス)
平成7年度	123(1)	123(1)	—	—
平成8年度	112	112	—	—
平成9年度	118	118	3(3)	3(3)
平成10年度	118	118	14(1)	14(1)
平成11年度	117	117	27(2)	27(2)
平成12年度	120(1)	120(1)	★133(1)	★133(1)
合計	708(2)	708(2)	★177(7)	★177(7)

物質創成科学研究科

	博士前期(修士)課程			博士後期(博士)課程		
	学位授与数	学位の種類・専攻分野名		学位授与数	学位の種類・専攻分野名	
		修士(工学)	修士(理学)		博士(工学)	博士(理学)
平成11年度	97	74	23	—	—	—
平成12年度	85	72	13	—	—	—
合計	182	146	36	—	—	—

[備考]()内は、短期修了者を内数で示す。

★は、論文提出による学位授与者を外数で示す。

(就職状況)

情報科学研究科博士前期課程は、平成5年度から修了生を出しており、就職率は98%と一貫して高い水準を保っている。就職先は、電気機械、精密機械、通信、情報関連企業、官公庁などであり、研究者や電気・情報処理技術者として活躍している（右記【表1】参照）。これら主な就職先である情報・通信関連産業は、情報化・マルチメディア化の急速な進行により、大きな投資が行われており、人材の需要が非常に高くなっている。さらに、情報関連産業以外でも情報システムへの依存度は高まっており、情報技術者、研究者の活躍範囲は拡大すると思われる。博士後期課程の修了生たちもそれぞれ、大学の教官、国や公共研究機関へ進み先端的情報研究に従事する研究員、電子・情報関連企業の技術者として活躍している。

バイオサイエンス研究科博士前期課程は、平成7年度から修了生を出しており、就職率は90%と高い水準である。就職先は、農業・食品・化学・医薬品関連企業、国や農業団体の試験研究機関などであり、食品、化学・製薬技術者として活躍している（右記【表2】参照）。これら食糧・医薬・環境・エネルギー等の分野は、今後も人類の重要な課題であり、バイオサイエンス・バイオテクノロジーを応用し医薬品の開発、環境対策、食糧増産など産業界からも期待されており、技術者や研究を担う人材の育成が求められている。一方、入学者の約半数は博士後期課程へ進学している。博士後期課程修了者については、研究者になるために進学しており、大学の教官や、大学や研究機関で博士研究員（ポスドク）として研究に従事する機会が多い。また、学術振興会特別研究員に採用され、研究を深める者もいる。

物質創成科学研究科博士前期課程は、平成11年度から修了生を出しており、就職率は94%と高い水準である。就職先は、食品・化学・医薬品・電気機械・精密機械・官公庁などであり、電気・化学技術者として活躍している（右記【表3】参照）。在学時の研究内容が新素材や新材料の開発に関するものが多いため、製造業が中心であるが、情報科学やバイオサイエンス関連の企業等も含め、幅広い産業に人材を輩出している。博士後期課程は平成12年度から学生の受入れを始めており、平成14年度に修了生が出る予定である。

【表1】情報科学研究科

《博士前期課程修了者の就職上位企業(過去3年間)》

企業名	H12	H11	H10	計
シャープ	7	6	6	19
日立製作所	6	6	3	15
日本電気	5	3	4	12
松下電器産業	4	4	4	12
NTT	2	1	7	10
ソニー	3	2	3	8
富士通	2	3	3	8
東芝	3	2	2	7

【表2】バイオサイエンス研究科

《博士前期課程修了者の就職上位企業(過去3年間)》

企業名	H12	H11	H10	計
理化学研究所	4	3	0	7
クイントイルズ・アジア・インク	2	3	1	6
日本アイ・ピー・エム	0	1	4	5
シスメックス	2	1	1	4
ハイテック	3	0	0	3
協和発酵工業	1	1	1	3
サラヤ	0	2	1	3
浜松ホトニクス	0	1	2	3

【表3】物質創成科学研究科

《博士前期課程修了者の就職上位企業(過去2年間)》

企業名	H12	H11	計
シャープ	2	2	4
山本秀策特許事務所	2	2	4
セイコーエプソン	3	0	3
富士通	1	2	3
大日本インキ化学工業	2	0	2
三菱電機	2	0	2
ミノルタ	2	0	2
メイテック	2	0	2